

家政科だより



令和4年11月12日
第3学年

課題研究保育・福祉探究(10名)
常用リビング11/19より

常総市
「行方不高齢者等SOS
ボランティア養成講座
” 寸劇 “

市生涯学習センター

常陽リビ

常総市では、2016年から市独自の「行方不明高齢者等SOSボランティア養成講座」を実施しており、これまで251人がボランティアに登録。市の防災無線から情報が流れた際、可能な範囲で地域を見回するなど行方不明者の早期発見に努める「地域での見守り体制の強化が一番のねらい。受講後にボランティア登録してもらうことで意識が高まる」と市担当者。

行方不明高齢者の早期発見へ 「認知症の人への対応方法」 を高校生が寸劇で挑戦

寸劇に挑戦したのは課題授業で保育と福祉を選択する家政科の3年生10人。授業の一環として福祉施設で高齢者との交流や認知症について学んでおり、市が作成した台本を元に自分たちのアレンジを加えて内容を膨らませた。数週間後に本番を控え、市担当者を前に行った練習で生徒たちは「日常感を出すために普段の会話をセリフ

行方不明者の多くが高齢者であることから、昨年から認知症サポーター養成講座と併せて開催。その中の「認知症の高齢者への対応方法」の寸劇を県立水海道二高の生徒が行った。昨年までは市や福祉施設の職員が担当していたが、高校生が実演することで本人たちはもちろん保護者や祖父母など幅広い世代が関心を持つきっかけにつなげたいと7月に市が同校へ依頼し実現した。

同校の海老沼正校長は「短期間の練習にも関わらず立派に演じていた。地域のために前向きに取り組む姿勢を嬉しく思う」とねぎらった。養成講座は12日に常総市内で行われ、生徒たちは練習の成果を発揮した。



市担当者を前に行った直前の練習の様子

当日の様子



高齢者になりました。